

令和3年度 学校関係評価書

令和4年3月15日
真庭市立米来こども園
園長 横田 朝子

1. 米来こども園 教育保育目標

<p>「人や物とのつながりの中で 生き生きと遊ぶ子どもの育成」 ○落ち着いた生活○考える・伝える力○やる気○学びの定着 <目指す子ども像> ○明るく元気な子ども○友だちと仲よく遊ぶ子ども○遊びを工夫し、最後までやりとげる子ども ○思いやりのあるやさしい子ども</p>

2. 本年度の重点目標（課題）

<p>○健康な生活リズムを身に付け、集団の中で主体的に活動できるこどもを育てる。 ○主体的に環境にかかわり、互いに認め合いながら、意欲的にやり遂げようとするこどもを育てる。 ○いろいろな人や物、自然とのかかわりの中で、いきいきと自分を表現したり、相手に思いやりの心をもって接したりできるこどもを育てる。 ○研究テーマ「心も体も元気 みんなにここにこ あったかくなる遊びとは」 ～思わず体を動かしたくなるような環境構成と援助～</p>
--

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	評価委員評価 (学校評議員)
教育課程 ・指導計画	担任同士で話し合い、協力しながら保育実践を行い成果の共有もできた。指導案検討などを複数の職員で行うことで、保育環境について共通理解をしたり考えたりすることができ、研修にもなった。	4	4
行事	コロナ禍のため中止となった行事もあったが、開催方法や内容など検討して実施することができた。今後も感染対策を徹底しながら子どもの育ちに必要な行事を精選し、内容を検討しながら行うようにしていきたい。	3	3
組織・運営	今年度よりこども園となり、シフト等の対応での職員負担も増えたため、短期臨時対応で業務負担を減らすよう工夫してきた。複式クラス保育の課題については年齢ごとに分かれての活動が3学期からとなり、早くからする必要性を感じている。	3	3
学級経営	同年齢でも発達段階に差が大きい為、個性や特性に合わせた対応がもっと必要だったと感じている。子ども一人一人を受け止め、ていねいに関わっていくことができ、育ちにつながったと考える。	4	4
特別支援教育	保護者との情報共有をしながら、家庭での様子を指導計画に活かすようにした。全職員で研修をしながら保育にあた	3	3

	ることができた。		
安全管理 ・保健指導	安全点検を毎月行い、総合遊具など危険が伴う遊具で遊ぶ時には必ず職員がそばで見守るようにしてきた。子どもたち自身が手洗い、消毒、給食時の黙食などのマナーを意識して行い、衛生面感染対策面も意識して生活することができるようになってきている。今後もこの習慣を大切にしていきたい。	3	3
研修（資質向上）	実施された研修会については積極的に参加し、それぞれの職位で生かせるように努めてきた。また研修後は必ず報告をし、共通理解してきた。日々の子どもの育ちを話し合い、発達段階に応じた教材研究や特別支援、人権教育等の園内研修も行うことができた。	3	3
情報提供・保護者・ 地域との連携	保護者との対話を大切にしながら、通信、日々の様子の写真掲示や連絡帳の活用をしてきた。コロナ禍でも内容検討し、感染対策を講じながら園行事もできた。地域の方への情報提供について、学校だよりのような工夫も必要と考える。	3	3
小学校との接続 ・連携	2学期に入り、1年生・5年生を中心に計画的に交流会を実施することができた。来年度は年度当初に担当者での協議を行い、感染対策を講じた交流の在り方、内容等を検討していきたい。	3	3
子育て支援	登降園時に保護者とコミュニケーションをとるよう意識するとともに職員間で共通理解しながら、子どもの育ちを保護者と共有できるように努めてきた。また、少人数ではあったが、一時保育や土曜日保育の利用もあり、短期職員と園職員を組み合わせながら実施することができた。	3	3
食育の推進（給食）	共同調理場と連絡を取り合いながら、季節や行事に合わせた給食を安全に提供することができた。また、5歳児は当番活動として食材を栄養ごとに分けて展示して、栄養のことや材料への興味も持つことができた。	4	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価	評価委員評価 (学校評議員)
その他1			
その他2			

5. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- 職員間での協力体制があり、保育内容の検討や準備、実施がスムーズにできている。
- コロナ禍でも手洗い消毒、換気等の徹底をしながら幼児の利益を最優先に、できることを模索していくという方向に職員の協力体制ができている。そのことは保育の充実につながっていると思う。
- 今年度より3年保育の幼保連携型こども園に、職員数も5名となり、日々の情報共有を通して子どもや保護者についての共通理解を基盤とし、丁寧に日々の保育を行うことで、一人一人が伸び伸びと自己発揮し、意欲的に日々の生活を送る姿が見られるようになった。今後も子どもたち一人一人に寄り添って、保護者や地域の協力をいただきながら、子ども達の育ちを支えていきたい。

<学校関係者評価総合所見>

- 3歳児と4歳児では年齢差が大きい。本来は発達段階に応じた単式のクラスが望ましいと思う。複式であれば、保育方法や内容の工夫が必要だと思う。
- コロナ禍ではありますが、園行事等を積極的に行っていたと感じています。
- 難しいことだとは思いますが、ソーシャルディスタンスを取りながら、もちつき等の地域との行事を充実していただけたらと願います。
- 幼稚園からこども園となった初年度で、先生方も大変だったと推察いたします。次年度はこの経験をもとにさらなるパワーアップを期待します。
- 子ども園になり狭くなった園庭をどうするか、市と相談してみてもどうかと思います。
- 子どもたちの遊び、姿に応じた環境（職員が休みの時に入る保育者や広い空間）を市と相談して整えていただきたい。
- 学校便りと一緒に園だよりなどもいただけると園の様子もよりよくわかると思います。

6. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- 複式での保育内容の充実については、担当課に複式解消の保育者の加配を要求しながら、子ども達との信頼関係を築けるように、米来こども園に継続して来ていただける短期臨時保育者を、確保していきたい。
- 今年度の経験を踏まえて感染対策を取りながら、また、保護者や評議員の方々のお力をお借りしながら、子どもたちの生活をより豊かにできる地域交流体験を計画していきたい。
- 園庭については、今年度同様に小学校と連携しながら運動場を使用させていただくと同時に、目木地区にある地域の公園の活用もしながら、広い運動場での遊びを考えていきたい。
- 地域や学校評議員の方への情報提供として、学校便りの配布と一緒に園の便りの配布も検討していきたい。